

# 『令和7年度飫肥中学校 研究通信No.1』 令和7年7月22日(火)

## スクールワイド PBS を活用した学習支援と生徒指導の探究

### ～スクールワイド PBS の効果的な実践のあり方～

本校では昨年度の校内研究において、研究主題を「スクールワイド PBS を活用した学習支援と生徒指導の探究～スクールワイド PBS の効果的な導入のあり方～」(以下スクールワイド PBS を SWPBS と明記する)と設定し、3ヶ年計画の1年目として[SWPBS の理論研究]、[全国学力・学習状況調査分析]、[行動目標の作成]、[ノーチャイムキャンペーンの実施]等について研究を行いました。SWPBS 導入1年目ということもあり、学校全体での共通理解と基盤づくりを重視し、昨年度の効果的な実践による発達支持的生徒指導の充実に努めました。

そこで、本年度の主題を「スクールワイド PBS を活用した学習支援と生徒指導の探究～スクールワイド PBS の効果的な実践のあり方～」と設定し、3ヶ年計画の2年目として研究を進めることにしました。具体的な内容としては、『行動目標の実現に向けたキャンペーンの実施』や『ABC 分析や SWPBS を活かした授業改善についての協議』等を講じることを計画しています。もちろん、昨年度実施した理論研究や諸調査分析等も実施します。このように1年間の研究を進めることにより、課題を未然に防ぐことができる発達支持的生徒指導の実現や、非認知能力(※)の向上による生徒たちの「わかる!」「できる!」を実感させることで、学力の向上に繋がると考えています。

※非認知能力：学力テストなどで数値化できる認知能力とは異なり、意欲、協調性、やり抜く力など、数値では表せない能力のこと

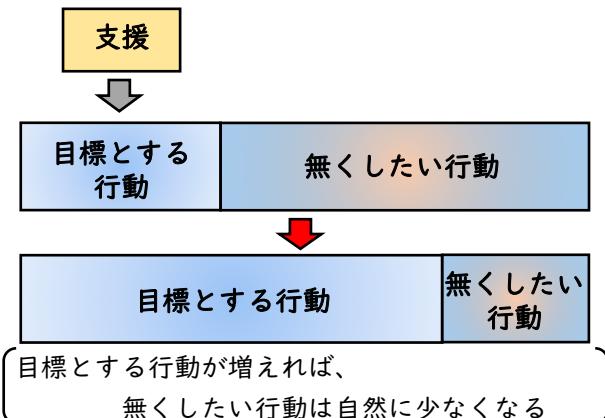
#### ☆ SWPBS とは

SWPBS (School-wide Positive Behavior Support) とは、学校全体で児童生徒の望ましい行動を育成するための予防的かつ包括的な教育支援システムのことです。従来の罰則中心の指導とは異なり、肯定的な声かけや環境整備を通じて、子どもたちが自発的に好ましい行動をとれるよう支援します。応用行動分析に基づいた科学的手法を活用し、教職員が一貫したルールと対応を学校全体で共有しながら、子どもたちの行動を育てていきます。

実践にあたっては、授業中・清掃時間・移動中などの場面ごとに行動目標(図1)を設定し、その目標達成に向けて、生徒に明確に教え、達成した際にはしっかりと褒めて、認めて評価します。また、記録や評価を通じて成果を可視化し、子どもたちにもフィードバックを行うことが特徴です。

SWPBS の導入によって、問題行動(暴言・暴力・授業妨害など)の減少、学力の向上、教師の指導力強化、生徒の主体性の育成、さらには学級崩壊の予防など多くの効果が期待されます。

☆目標とする行動をポジティブな支援で伸ばす☆



#### ☆ 昨年度(1年間)の取組の一部

- (1) チームワイド PBS 推進チームの発足  
「自立・共生・感謝」をキーワードにし、推進チームが行動目標の素案を作り上げました。
- (2) 行動目標作成  
生徒全員が具体的に取り組めるもの、評価できるものや見て分かる行動にするなど、活発に意見交換し、職員案を作成しました。平行して執行部及び専門委員長が中心となり、行動目標の素案作りに取り組み、その後、職員案とのすりあわせを行いました。一緒に話し合うことで、生徒会メンバーの努力してきたことが、認められる場面となり、達成感にもつながる良い機会となりました。
- (3) プレ実施 (望ましい行動の強化キャンペーン)  
完成した行動目標をもとに、ノーチャイム週間を使ってキャンペーンを実施し、その中で「1分前着席」の行動目標について実践しました。フィードバックの方法として、「OBI AQUARIUM」を考案し、できしたことへの賞賛を行いました。

※ OBI AQUARIUM とは、1分前着席ができたら、QRコードの読み込みからポイントが貯まり、そのポイントが水槽に水草や魚などのアイテムがもらえるシステムのこと。



#### (4) 事前・事後アンケートの実施結果

- ①「1分前着席を意識しているか」で「とても意識している・意識している」が86%→99%に増加した。
- ②「時計を見て行動できているか」で、「とてもできている・できている」が87%→96%へ増加した。

#### (5) 成果と課題

生徒からは、意識できるようになった、OBI AQUARIUM が貯まるのが楽しみだったなどの声が上がり、効果が十分見られました。ただ、実践を通して、共通理解の大切さ、QRコードの提示の仕方、教員側からの声かけの徹底などに、課題も明らかになりました。

#### ☆ 今年度(1学期)の取組の一部

##### (1) あいさつ強化キャンペーンの実施

気持ちの良いあいさつができる機会を設け、望ましい行動を強化するためにキャンペーンを実施しました。これらのキャンペーンを実施することで、飫肥中学校行動目標[挨拶をして教室に入ろう(朝の会前)。あいさつの時は、立腰しよう。100回会ったら100回挨拶しよう]の達成を目指しました。最初に、気持ちの良いあいさつとは何かについて、生徒会執行部、全校専門委員長・副委員長が話し合い、見本となる動画を撮影しました。全校生徒が同じ動画を見ることで、どのようなあいさつをすれば良いか明確になりました。学校生活の中で気持ちのよいあいさつができた生徒には、フィードバックとして、行動を認め賞賛しながら、職員がカードを配付しました。カードは、生徒玄関前のフォルダに入れるようにしました。

また、授業開始時・終了時のあいさつも強化しました。授業開始/終了時に、良い姿勢(立腰)であいさつができた学級に、授業担任がパズルのピースを渡しました。カードは学級総務が、生徒玄関前に設置されたA4サイズのパズル枠に貼っていました。

この取組を実施するにあたり、生徒会執行部・全校専門委員長/副委員長・全職員で内容を協議しました。この取組を通して、生徒と先生方とがコミュニケーションをとる機会にもなりました。

##### (生徒玄関前カードフォルダ)



##### (あいさつパズル)



【裏面につづく】

## ☆ あいさつキャンペーンの成果と課題

### ○ 成果

#### <教師>

- あいさつの声が大きくなったり笑顔があつたり気持ちよくあいさつをする生徒が増えた。
- 生徒が楽しそうに取り組んでいた。
- キャンペーンを通してあいさつはもちろんですが、生徒とのコミュニケーションのきっかけになった。
- 生徒がとても明るくあいさつをする姿が見られたので校内の雰囲気も明るくなかった。
- キャンペーンを通して、生徒も教師側も元気なあいさつができていた。

#### <生徒>

- みんなが大きな声であいさつができるようになってとてもいいキャンペーンだと思った。
- あいさつキャンペーンを始めてからみんながあいさつをしていて学校全体が明るくなかった。
- 飯盒中の100回会ったら100回あいさつができたと思います。
- ちゃんと意識してあいさつができるようになって、どんな時でもあいさつを心がけるようになった。
- エクセレントじゃカードがもらえて嬉しかった！

### ● 課題

#### <教師>

- 生徒会の子どもたちのアイディアが生かされ、それに基づいた実践が増えてくるとよい。
- キャンペーンでの意識を継続していくけるとなおよいのではないかと思う。

#### <生徒>

- 先生を待ち伏せしている人がいた。
- 2学期、3学期、来年も続けてほしい。学校全体の挨拶がよくなつたので、1週間でなく期間も伸ばしてほしい。

## 非認知能力の向上が見られるアンケート結果について

Q1 自分には、よいところがあると思う。	1年生		2年生		3年生	
	キャンペーン前	キャンペーン後	キャンペーン前	キャンペーン後	キャンペーン前	キャンペーン後
1 当てはまる	39%	→ 44%↑	43%	→ 52%↑	50%	→ 58%↑
2 どちらかといえば、当てはまる	43%	40%	42%	39%	38%	30%
3 どちらかといえば、当てはまらない	12%	14%	9%	7%	8%	6%
4 当てはまらない	6%	2%	6%	2%	4%	6%
Q2 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	1年生		2年生		3年生	
	キャンペーン前	キャンペーン後	キャンペーン前	キャンペーン後	キャンペーン前	キャンペーン後
1 当てはまる	47%	→ 54%↑	32%	→ 51%↑	48%	→ 53%↑
2 どちらかといえば、当てはまる	39%	40%	52%	39%	42%	38%
3 どちらかといえば、当てはまらない	10%	6%	11%	8%	6%	8%
4 当てはまらない	4%	0%	5%	2%	4%	2%
Q3 先生は、あなた以外の生徒のよいところを認めてくれていると思う。	1年生		2年生		3年生	
	キャンペーン前	キャンペーン後	キャンペーン前	キャンペーン後	キャンペーン前	キャンペーン後
1 当てはまる	65%	→ 84%↑	58%	→ 61%↑	69%	→ 72%↑
2 どちらかといえば、当てはまる	27%	16%	37%	39%	25%	28%
3 どちらかといえば、当てはまらない	8%	0%	3%	0%	2%	0%
4 当てはまらない	0%	0%	2%	0%	4%	0%

## あいさつキャンペーン 事後アンケート結果について

### Q1 キャンペーンによって、あなたのあいさつは良くなつた。

	1年生		2年生	
	人数	割合	人数	割合
1 当てはまる	33人	66%	42人	69%
2 どちらかといえば、当てはまる	15人	30%	18人	30%
3 どちらかといえば、当てはまらない	1人	2%	0人	0%
4 当てはまらない	1人	2%	1人	2%

### Q2 キャンペーンによって、学校全体のあいさつは良くなつた。

	1年生		2年生	
	人数	割合	人数	割合
1 当てはまる	35人	70%	48人	79%
2 どちらかといえば、当てはまる	14人	28%	13人	21%
3 どちらかといえば、当てはまらない	1人	2%	0人	0%
4 当てはまらない	0人	0%	0人	0%

### Q3 あいさつキャンペーンが終わっても、良いあいさつをしようと思う。

	1年生		2年生	
	人数	割合	人数	割合
1 当てはまる	33人	66%	50人	82%
2 どちらかといえば、当てはまる	16人	32%	11人	18%
3 どちらかといえば、当てはまらない	1人	2%	0人	0%
4 当てはまらない	0人	0%	0人	0%

## ☆保護者や地域の皆さまへ

SWPBSをより効果的に進めるためには、ご家庭や地域でのご協力が不可欠です。以下のことについて、ご協力いただけすると幸いです。

- ① ご家庭や地域のお子様の前向きな行動（例：自主的な学習、家族との適切なコミュニケーションなど）について、言葉にして褒めていただけすると幸いです。（ポジティブな声かけ）その行動が増えます。
- ② 学校で行っている取り組みについて、お子様との日常の会話に取り入れてみてください。（キャンペーン期間中における「今日はカードもらえた??」など）
- ③ 学校やご家庭や地域でのポジティブな変化に気づいた際は、ぜひフィードバックとしてお子さんを認め、賞賛してください。また、学級通信の返信欄等に書いていただけするとお子様の成長を共有できます。

中学生という成長の過程において、「認められる経験」や「肯定的な声かけ」は、自己肯定感や社会性の育成に大きく寄与します。保護者や地域の皆さまと学校が協力して、生徒一人ひとりの前向きな成長を支えていなければ幸いです。今後ともご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

感想 ( ) 年 ( ) 組 氏名 ( )

保護者